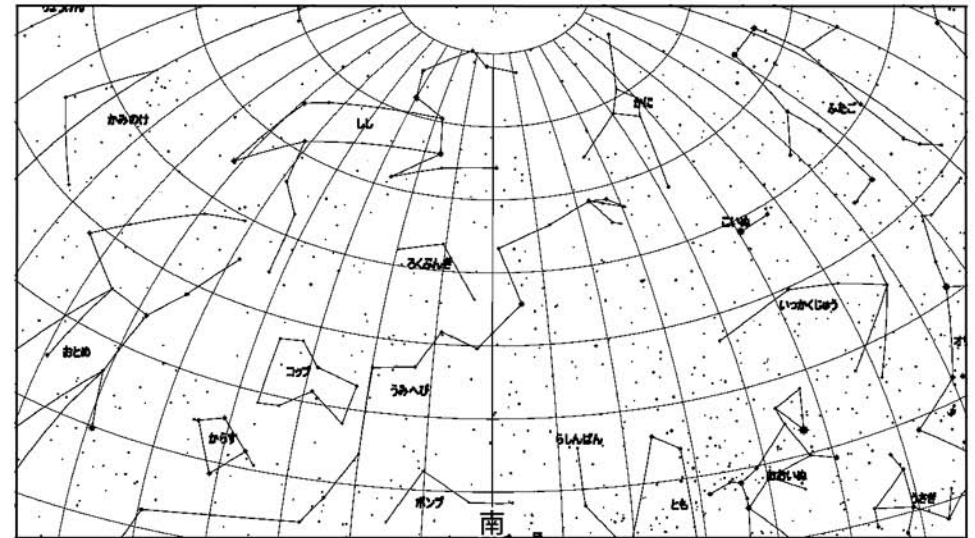


姫天だより

明るい星こそありませんがかに座には双眼鏡や小望遠鏡で楽しめる散開星団が2つあります。中でも有名なM4 4プレセペ星団はかにの甲羅の部分にかすかに青白く光っているのが見えます。肉眼では星雲状にしか見えませんが、双眼鏡を使うと100個あまりの星が黒ビロードにちりばめた真珠のように見えます。この姿を蜂の巣に見たてて、イギリスでは“ビーハイブ”（蜂の巣）といい、中国では死体から立ちのぼる燐光に見たてて“積尸気”（ししき）と呼ばれています。

★今月のテーマ月をみる会

観望会当日の月齢は11.5 満月3日前のわずかに欠けた月を観察します。
観望会では大きな望遠鏡で満月に近い月を見る時にはそのままですと目が眩んでしまいますのでムーングラスというフィルターを使って月の光をある程度減らして観察しています。ムーングラスにはわずかに色が付いておりますので多少黄色がかった月を見ていただくことになります。
当日は『4月こと座流星群』の活動期にもあたり極大日は過ぎておりますが東の空から昇る流星を見られる可能性もあります。



4月15日午後8時の南の空

4月号
2021

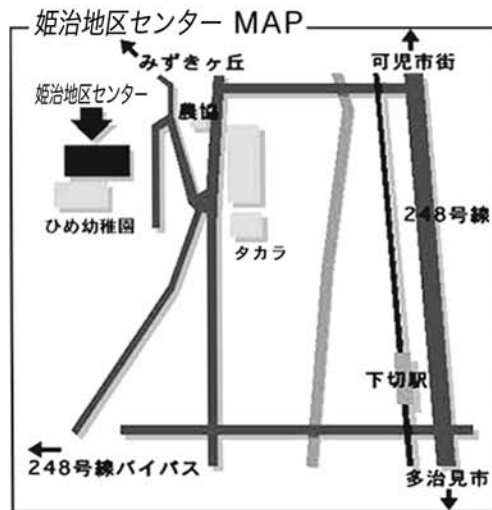
-次回の天文クラブ-

●4月の星を見る会

4月24日(土)午後7時30分より
月の観察
春の星座観察

●皆既月食を見る会

5月26日(水)午後7時30分より
皆既月食の観察



JR太多線下切駅より徒歩13分
2021年4月1日発行

※観望会についてのお問い合わせは
姫治地区センター (62-0104) まで

姫治地区センター
岐阜県可児市下切 1530
☎0574-62-0104
姫治天文台
<http://himeziten.yu-yake.com/>

★今月の星座 かに座

[今回の姫天だより今月の星座は都合上過去の原稿を再録させていただいております]

皆さんも良く知っている星占いに使われる星座ですが、実際に夜空で見つけられる方は少ないと思います。ふたご座の東、しし座の大鎌のちょうど真ん中あたりにある小さな星座で、明るい星もなく、4等星が4個、あとは暗い星ばかりですが、黄道に位置する為、古くから重要視される星座で、古代ギリシアの詩人アラトスの天文詩『ファイノメナ (星空)』(紀元前270年)にも、すでにかに座(カルキノス)の名が見られますから、少なくともおよそ5000年の昔から、人々に親しまれてきたこととなります。可児市の夜空でも星座の位置を探すのは意外と簡単だと思います。なぜならふたご座のカストルとポルックスとしし座のレグルスという明るい1等星の間にあるのですが、今年はレグルスの西に土星が輝いている為、冬の名残の双子星と春の双子星のような可児の夜空でも目立つ星の間を探せばよいのですから、しかし、4等星以下の暗い星々を結んでその姿を描くには、双眼鏡が必要でしょう。見ごろは4月上旬、夜8時前頃に南の空高く(地平高度75度)に見つかります。

ギリシア神話では、勇士ヘラクレスの12の難行の2番目レルネの沼のヒュドラ退治をしているときに女神ヘラがさしむけた化けがにで、ヘラクレスの足を挟もうとしたがたちまち踏み潰されてしまいました。女神があわれんで天にあげて星座にしたといわれています。

裏面に続く